MUV-LUV ALTERNATIVE5（改）

ポンポコ狸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＭＵＶ－ＬＵＶ　ＡＬＴＥＲＮＡＴＩＶＥ５（改）

【Ｎコード】
Ｎ４２７７Ｐ

【作者名】
ポンポコ狸

【あらすじ】
ＭＵＶ－ＬＵＶ　ＡＬＴＥＲＮＡＴＩＶＥに、宇宙移民に忌避感を持たない人間が来訪したらどうなるのか。
本来有り得たかも知れない道を外れた、未来はどこへ行くのか？

プロローグ

突然ですが、転生しました。

しかも、複数回もロボットアニメの世界を彷徨っています。

それも、リアル系の物ばかり。

要するに、シリアス１００％・御都合主義絶無・ハッピーエンド無し・超現実主義の、人と人の殺し合いの人生の連続です。

何が原因で、こんな事に成ったのかな？

積重なって行くのは、知識と経験・記憶と思い出・後悔と絶望、

そして人を殺し続けて真っ赤を通り越してドス黒く染まった手。

夢なら覚めてくれと何度思ったことか・・・。

記憶に残っている最初の人生は、何処にでも居るであろう極々平凡な大学生でした。

大学４年で卒業単位習得済み・就職内定済み・卒業研究発表を残すのみと成った、暇な時間が大いに存在する何処にでも居る大学生です。

まあ暇な時間を、リアルロボットアニメのマラソン鑑賞で潰す程度にはオタクでしたが。

転機を迎えたのは、卒研発表の前日です。

明日が発表と言う事も有り、気分転換がてらに愛車で近くの山間部を昼間からドライブしていました。

大学４年で走り慣れた道を、何時もの様に何時も通りに走行して。

異変が起きたのは、谷沿いの５連続ヘアピンカーブの半分を過ぎたところです。

どっかの馬鹿が、タイムアタックの様な速度で道幅一杯にドリフトしながら突っ込んで来ました。

衝突回避の為に、咄嗟に互いが反対方向にハンドルを切って正面衝突は回避しました。

その代わり、クルマごと谷底に向かってダイブしましたけど。

アンニャろうが、今度有ったら戦場仕込みの拷問術をフルコースで喰らわせてやる。

まぁ、そんなこんなで、それ以降は色んなロボットアニメの世界を旅しています。

大概が裏方の裏方、俗に言うシャドウワークス専門で。

何故か、原作主役組みとは滅多に顔合わせした事無いけどね。

因みに前回の世界は、マクロスF。

グレース女史の元、VF－27γに乗ってギャラクシー側に付き、フロンティア勢に攻撃を加えていました。

サイボーグ体は初めてでしたけど、高性能かつ便利な反面、メンテナンスが偉く大変でした。

そうそう、パイロットや工作員としての腕は今までの技術や経験があるので超一流でしたよ。

お陰で、捨て駒には成らなくてすみました。

一緒にガリア4に来いとか言われた時は・・・終わった・・・とか思っちゃいましたよ。

最終決戦の時はバジュラクイーンと合体した、グレース女史の護衛に回りました。

結果はご存知のとおり、こっちの負け。

原作で、アルト中尉とブレラ少佐がコンビで突撃して無双するシーンが有りましたよね？

あの中の一機が、自分です。

まぁ、そんなこんなでマクロスF世界をログアウトしました。

ログアウトした筈なんですけどね。

「何でまだ、サイボーグ体でＶＦ－２７γに乗ってるのかな自分？」

しかも、ＶＦ－２７用試作デストロイドパック・対艦用大型反応弾・大型フォールド爆弾・スーパーフォールドブースター。

何、この超重装備。

星でも消滅させる気か？

マジで出来るぞ。

「それに、個々何処の世界だよ。　マクロス世界な訳無いよな？　あそこに見える地球っぽい惑星は、無防備過ぎるしな」

それに今までの転生は、赤ん坊の段階から始まって、前の世界の身体や装備の引き継ぎは一切無しがデフォルトだったのに。

・・・マジ、どう言う事なんよ？

第一話　この先どうしよう？（前書き）

お久しぶりです。
リアルが忙しく、執筆に時間が取れない時期が続いていました。
不定期更新になると思いますが、完結目指して頑張りますので改めてよろしくお願いします。
長期間放置していたので、プロローグ以外は改定して進めようと思います。
基本方針は変えないつもりです。

第一話　この先どうしよう？

取り合えず、地球の周りをステルスモードで周回しつつ地表及び太陽系内を索敵していると、とある事実が判明。
何か、気色の悪い生物が集団で地表を走破しながら、デストロイドっぽい人型兵器と戦闘をしていました。

「・・・ここ・・・Ｍｕｖ－Ｌｕｖ・・・かな？」

つい、口からポロリと声が漏れました。
いや、まぁ、あれですよ？
人間同士が表立って戦争してる所よりはマシですけど、何で双方殲滅戦を展開している世界なのかな？
あれですか、見えない何かに嫌われてるんですかね、俺？
特に悪い事をした覚えは・・・・うん、何でも無いですよ？

あれは仕事でしたことですし、あっちは勅命でしたし・・・。

「取り合えず、この先どうすっかな・・・？」

進入したネットワークを調べた結果、今は１９８０年1月だそうだ。

まあ、時系列が分かった所でどうしようもない事なんだが。

Ｍｕｖ－Ｌｕｖの大筋は何と無く覚えているが、詳細は忘れてしまったしね。

たしか、２０００年前後が本編として描かれていたと記憶している。

「地球のＢＥＴＡを殲滅するだけなら、特に難しい事は無いと思うんだけど地球に穴が開くかな？」

マイクロミサイル型小型反応弾が１００発以上、対艦大型反応弾が2発、ＤＥ（ディメンジョン・イーター）弾が2発、地球ごと殲滅する事も出来る火力だ。

Ｈ１（ハイブ１）以外を潰した後に、集結したＢＥＴＡを纏めてＤＥ弾で消し飛ばせば大丈夫かなと思うのだが、確実に地球に穴が開く・・・と言うか、地球が抉れる。

機体に搭載されているＤＥ弾の効果範囲は約１００００Ｋｍ、ガリア４でグレース女史が使用したものと同じものである。

「それに、この体の維持も考えないと」

インプラント技術により強化されたこの身体は、定期的に専門のメンテナンスを受けなければ、フルパフォーマンスを発揮するのは極めて困難。
基本的にインプラントボディはメンテナンスフリーなのだが、それはあくまでも民生品を極一般的な使用範囲内で使用しての事だ。
戦闘目的の機装強化兵では、各部パーツの設計耐久限界を超える事例が間々ある為、一戦後毎には精密測定を行っている。
その上、自身の身体を構成しているパーツ群は、ＶＦ－２７γの性能をフルに発揮する為にフォールドクォーツ系物質が使用され強化した特別製。
この時代の技術力では、交換部品の再生産は極めて困難である。

「やっぱり、この世界でも結局はシャドウワークスか」

まともな方法では、この世界で生きていく事は不可能だろう。
ならば、まともでない方法で、生き抜くしかない。
幸か不幸か、この世界は地球外起源生物と戦争状態にあり、人類側は押されている。
更に、この敵性地球外起源生物は、ゼントラーディー軍やバジュ

ラ程の圧倒的な戦力は持っていない。
その上、地球人類側の勢力に統一勢力は無く、個別の勢力が内ゲバで対立していると言う有様。

「付け込む隙は幾らでもあるな・・・」

どこかの勢力に肩入れし、自身の持つ技術を部分開放する。
自身の持つ技術群は、此処の地球を襲っている地球外起源生物とは比べ物にならない程強大な敵と戦って培われて来た物。
再現性の難しくない技術でも、十分に強力な物を作る事は可能になる。

「放出する技術レベルを調整すれば、戦争を長引かせる事も可能だな」

又、戦争は技術発展を加速させる。
更に戦争、特に双方共に殲滅戦とは人的資源を極端に消費する。
そうなると、戦闘により身体損傷で優秀な兵士が戦線離脱する事は、大いに忌避すべき事態でもある。
そこに、本物と同等或いはそれ以上の性能を持った義肢や人工臓器が製造出来る様になったらどうだろう？
おそらく、民需軍需問わずに需要は発生するだろう。

技術の発展は人が必要と望むからこそ、発展するものだから。
時間は掛かれど、いずれは自身の欲する部品も製造可能になるであろう。
そうする為にも、既存の擬態技術の方向性が自身の身体に使われているインプラント技術に辿り着く様に、基礎技術理論を公表し誘導する必要はある。

「あとは、何処の勢力に肩入れするかなんだけど・・・ま、言うまでも無いか」

提供する技術を最低限“使えるレベル”に持っていける勢力。
提供する技術を“大量に量産出来る”勢力。
提供する技術を“合理的に使える”勢力。
詰まる所、それらの条件に合致する勢力は・・・。

「・・・アメリカだけだな」

領土を侵略されておらず、一定水準以上の技術力を持ち、感情論より合理性を優先させる国柄。
両者の利益を追求するパートナーとしては、合格ラインにある。

「取り合えず・・・　・・・生き抜く事を最優先で頑張りますか」

第二話　隠れん坊は得意かな？（前書き）

お久しぶりです。
短いですが、第二話投稿です。

第二話　隠れん坊は得意かな？

取り合えずこの先の基本方針が決まり、地球に下りようと思うのだが・・・。
一つ問題が発生した。

「・・・どうやって地球に降りよう？」

マクロス世界の地球に比べたら貧弱極まりない防衛ラインだが、この地球にも宇宙から飛来する物体を補足迎撃する防衛網が張られている。
尤も、ＶＦ－２７γのアクティブ・ステルス（ＡＳ）やビジュアル・ステルス（ＶＳ）を使用すれば、光学的・電子的に姿を消せるが、流石に大気圏突入時には偽装も荒くなり完璧に誤魔化す事は難しい。
まず大丈夫だと思うが、不安材料は極力排除したい。

「現状選択できる、突入方法は３つかな？」

１：ファイター形態で大気圏突入。
２：ガウォーク形態で逆噴射減速をしつつ大気圏突入。
３：フォールドブースターを使用して、大気圏内へ直接フォールド。

この３つが、現状での選択肢である。
それぞれの、利点と欠点は。

利点
１：突入時間の短縮。
２：突入時の大気摩擦が発生せず、隠匿性が高い。
３：直接大気圏内へ進入する為、大気圏突入プロセス事態が発生しない。

欠点
１：高速で大気圏突入する為、断熱空気圧縮による空気加熱で、大気がプラズマ化し機体周囲が明るく輝いてしまい、ＡＣ・ＶＳを使用しても隠匿性が極端に低下する。
２：減速に長い時間かかり、大気圏上層を長距離移動するので、相手の索敵能力次第では発見される可能性がある。
３：フールドブースターの使用限度回数が減る。

考査
１：最悪、大気圏突入中に不審落下物として攻撃衛星の核弾頭によって迎撃される可能性がある。
２：現地球側の索敵能力を考慮すると、ＶＦ－２７γが捕捉される可能性はほぼ０。
３：手持ちの切り札の一枚を劣化させる必要性はない。

結論としては・・・。

「ガウォーク形態で、ＡＳ・ＶＳを併用しつつ降下するのがベストかな？」

あとは、突入コースの選定。
ハイブ周辺を避けつつ、人目があまり無い場所・・・。

「南極圏に降下して、北上するか」

不幸中の幸いにも今の人類の目は、月や火星等の外宇宙・地表・地下に集中している。
これは、新たな着陸ユニットの襲来や新規ハイブ建造や地中侵攻の警戒に力を入れた結果である。
また、レーザー種が登場した事により航空攻撃が不可能に成った事も大きく響いている。

そして降下予定地点の、南極圏はいまだ本格的な調査や開発が行われていない事も大きい。
一年中ブリザードが吹き荒れる気候も好都合である。
万一降下の足跡を捕捉されても、現地調査はほぼ不可能かつ痕跡

もブリザードが全てを覆い隠してくれる。
通常の航空機では飛行不可能な天候であっても、ＶＦ－２７γには些かの問題にも成り得ない。

「それじゃあ、降下する前に外装パーツとフォールドブースターを隠しておくかな」

流石に地表での拠点を確保していない状態で、反応弾やＦＢを持ち込むのは危険だと判断し、静止衛星軌道上を周回している手頃な小惑星を見繕いパーツを隠した。
降下自体はフル装備でも可能なのだが、装備品の管理が難しい。
万一暴発でもしたら、目も当てられない状況になる。

「降下準備完了。　周辺宙域クリア。　ＡＳ・ＶＳ正常作動。
降下軌道クリア。　・・・降下開始」

ガウォーク形態に可変し、大気圏降下を開始した。
減速は予定通りに巧くいき、大気のプラズマ化は発生していない。
このまま順調に行けば、あと数分で降下を完了するだろう。

「あっ・・・南極って事は、ペンギン見れるかな？」

第三話　何事も土台が重要（前書き）

前回から大分遅れて申し訳ない。

気分転換に、“未来人の異世界漫遊記ｉｎＩＳ”と言う作品を書き始めました。

其方の方もどうぞ見て見て下さい。

第三話　何事も土台が重要

無事、地球各勢力に見つかる事無く大気圏降下に成功。
降下地点は予想通りのブリザード。
視界はほぼゼロ。
この状況では、通常の航空機では何処を飛行しているのか分からずに墜落してしまうであろう。
もっとも、ＶＦ－２７γならほとんど問題には成らない。
衛星軌道上に隠した大型複合センサーアンテナパーツとのデータリンクにより、現在位置等の情報は得ているので特に問題は無い。

暫くブリザードの中を飛行すると、南極大陸を抜け南太平洋上に到達。

久しぶりに見る、有人惑星の海。
人工物でない本物の海。
見渡す限りの青い海。

何万光年と旅をする宇宙移民にとって、この海がいかに貴重な物かは実感として知っている。

それだけに残念に思う。
簡易計測の結果、大気中の放射能物質含有量がデータベースに残る星間戦争前のマクロス世界の地球（以降Ｍ地球）に比べて、かなり高レベルで検出できた。
即座にどうにか成ると言う訳ではないが、このまま放置すれば生態系にかなりの影響が出る。
一度完全に生態系が全滅したＭ地球を知る身としては、残念極まりない。

「まぁ・・・今の段階ならまだ、手のうちようはあるかな」

幸か不幸か、ＶＦ－２７γのデータベースには、様々な技術データが圧縮保存されている。
民間から軍事、仕事上知りえた研究室レベルの最新技術など色々ある。
勿論、半世紀ほど昔に使用された技術の製造法から運用方法も。

そう、『地球大気浄化作戦』に使用された各種化学反応剤のデータを。

「カナダの半分を汚染した米国なら、ノドから手が出るほど欲しい技術だろうな」

五大湖周辺の工業力の復活及び全力稼動。
生存不可能圏内の資源採掘再開。
長期的な汚染の解消。
その上、焦土作戦を展開しているユーラシア各国には極めて強力な外交手段にもなる。

「もっとも、手札を早々に明かす気はないけどな」

それに正体不明の人間が持ち込んできた、海の物とも山の物とつかない怪しい化学薬品を即座に散布するとは考えられない。
暫くは細々と活動しつつ、社会的信用もしくは技術的信頼を得る必要があるな。

「あれが、フロリダ半島かな？　レーダー反応、付近に艦船航空機の機影無し　闇夜に紛れるのが得策だな」

目視圏にアメリカ本土が映った。
日が傾き夕焼け空に成っているので、もう少し時間を置いてから上陸する事になる。
だが、その前に海底でする事が・・・。

「有った有った。　政府専用秘匿回線用海底通信ケーブル」

軌道上での情報収集の結果、本土近くの海底に埋設してある事が判明した海底ケーブルに用があった。
基本的な事だが、異邦人たる自分には戸籍が無い。
アメリカで活動する以上は、確実に必要なものである。

「政府筋から、情報機関筋に・・・・結構一杯有るな。　居ない筈の人間を一人存在させるには」

そんなこんなで、今までのシャドウワークじこみの腕まいを存分に振るった。
その結果、一人の人間が情報上に違和感無く誕生した。

“ブルース・オースティン”

これが新しいオレの名前と成る。
これで、最低限の準備は完了。
後は、粛々と行動して行くとしよう。

「あ～あ・・・・・・・・・・・・・・・これから暫く事故が続くな」

第三話　何事も土台が重要（後書き）

多分、奇麗事だけで人一人の存在を作ること出来ませんよね・・・？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4277p/

MUV-LUV ALTERNATIVE5（改）

2011年11月28日05時53分発行